

(様式6)

公共事業新規箇所評価調査書

評価確定日(平成27年08月31日)

事業コード	H27-農-新-06		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	農業農村整備調査計画費		部局課室名	農林水産部 農山村振興課
事業種別	農地集積加速化基盤整備事業		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855
路線名等	六合地区		担当課長名	佐藤 暢芳
箇所名	大仙市		担当者名	安部 研一郎
総合計画との関連	政策コード	02	政 策 名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略
	施策コード	02	施 策 名	秋田米を中心とした水田フル活用の推進
	指標コード	02	施策目標(指標)名	生産性の向上による高収益農業の実現に向けた基盤整備の推進

1. 事業の概要

事業期間	H28 ~ H33 (6年)		総事業費	25.3億円	国庫補助率	55%	
事業規模	区画整理 A=79.1ha						
事業の立案に至る背景	<p>○現況のほ場は10a区画で道路も狭小であるため効率的な営農ができない状態である。また、用排水路は土水路でかつ兼用水路のため維持管理に苦慮しており、水はけの悪いほ場では戦略作物の導入が進まず複合経営への大きな支障となっている。</p> <p>○米価の低迷や米需要の減少、高齢化や農業用施設・農作業機械の老朽化により、地域農業をとりまく環境はきびしく集落機能の低下が懸念されており、新たな農業経営の展開を図る必要がある。</p>						
事業目的	<p>○大区画、用排水の分離・装工、農地汎用化のための暗渠排水整備、更には高品質・高収量を目指すための地下かんがいシステムの導入により複合経営が可能な基盤づくりを行う。</p> <p>○集落一体となり設立する農業法人に農地を集積し、団地化・連担化による効率的な農業経営を行うとともに、新たな作物導入により経営基盤の強化を図る。</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度以降
	事業費		2,526,000	58,000	481,000	554,000	1,433,000
	経費内訳	工事費	2,217,000	56,000	451,000	521,000	1,189,000
		用補費	28,000		7,000	7,000	14,000
		その他	281,000	2,000	23,000	26,000	230,000
	財源内訳	国庫補助	1,328,000	32,000	264,000	305,000	727,000
		県 債	656,000	14,000	119,000	137,000	386,000
その他		393,000	10,000	84,000	97,000	202,000	
一般財源	149,000	2,000	14,000	15,000	118,000		
事業内容	区画整理 A=79.1ha 暗渠排水 A=79.1ha	実施設計 N=1式	区画整理 A=19ha	区画整理 A=19ha 暗渠排水 A=19ha	区画整理 A=41ha 暗渠排水 A=60ha		
調査経緯	<p>平成25年度基礎調査(調査費 8,600千円 国50%、県20%、地元30%)</p> <p>平成26年度実施計画(調査費 3,600千円 県50%、地元50%)</p> <p>平成27年度調査計画(調査費 1,000千円 県50%、地元50%)</p>						
上位計画での位置付け	第2期ふるさと秋田元気創造プラン「秋田米を中心とした水田フル活用の推進」 第2期ふるさと秋田農林水産ビジョン						
関連プロジェクト等	特になし						
事業を取り巻く情勢の変化	○農産物の価格低迷や生産資源価格の上昇等農業経営を取り巻く環境が厳しさを増す中、農山村地域では過疎化や高齢化が進み、地域の集落機能の低下や担い手の不足等により、農業生産力が低下するとともに、定住基盤の崩壊が懸念されている。このためほ場整備事業を導入し、生産力の強化と法人等への集積と複合経営により経営基盤の強化を図る必要がある。						
事業効率把握の手法	指標名	担い手が経営する面積割合					
	指標式	地区内の担い手の経営面積/ほ場整備地区面積					
	指標の種類	● 成果指標 ○ 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無			
	目標値 a	83 %	データ等の出典	基盤整備関連経営体等 促進計画書			
	達成値 b	94 %					
達成率 b/a	114 %	把握の時期	平成27年 7月				

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○小区画水田、狭小な道路、用排兼用土水路のため効率性の悪い営農を強いられている状況であり、この課題を解決できる手段としては場整備事業が必要である。	13 点
緊 急 性	○65歳以上の耕作者 71%	10 点
有 効 性	○枝豆、ほうれん草、花卉などの戦略作物を取り入れた複合経営。さらには地下かんがいシステムの導入により農作物の高品質、高収量を実現する。 ○事業を契機に新設する2法人により94.6%の農地を集積(法人による面的集積92.5%)	38 点
効 率 性	○小区画での農作業から大区画に変わること、作業の効率化・省力化が図られるとともに、ほ場条件が改善されることで生産性が格段に向上する。これにより費用対効果は1.14となっている。	8 点
熟 度	○同意率99% ○県河川との協議中であり、合意が得られる見込みである。	18 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) ○大仙市の重点振興作物である枝豆、ほうれん草、花卉等を導入するなど高収益農業への転換を図るほか、地域の特産を利用した6次産業化への取り組みなどほ場整備事業を通じて地域を支える姿勢は評価できる。	87 点
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 ○大区画化による農作業効率の向上と地域の9割以上を法人に集積することによって、低コスト化・効率化を図り、農業経営の競争力強化と担い手の確保・育成に寄与する計画である。ほ場整備事業に対する期待は大きく事業の実施は妥当と考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
農業法人2法人に94.6%の農地を集積し、高収益農業への転換を計画している。併せて、大葉、ブルーベリー、タラの芽の新規作物の栽培・加工・販売を計画するなど、複合化・6次産業化による経営基盤の強化の観点から有効性が高く、かつ必要性も高いことから、事業実施という一次評価は妥当である。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
新たに2つの農業法人を設立し農地集積を進めるほか、エダマメ、ほうれん草などを導入することで複合経営化を目指すこととしており、経営基盤の強化が期待される。また、旧堰の埋戻材として、購入土ではなく地区内にある原野高台の掘削土を利用するなどコスト削減の工夫も認められる。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 ほ場整備事業

事業コード (H27-農-新-06)
箇所名 (大仙市)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性				
	受益面積 (地域周辺への波及度)	100ha以上 (条件不利地域の場合、50ha以上) 50ha以上100ha未満 (条件不利地域の場合、20ha以上50ha未満) 50ha未満	5 3 1	5	過疎・特定農山村・山振 A=79.1ha
	区画の現状 (労働生産性の現状)	地区の50%以上の農地が10a未満の区画 地区の50%以上の農地が10a以上30a未満の区画 地区の50%以上の農地が30a以上の区画	3 2 1	3	10a未満 100%
	水路の現状 (営農への支障状況)	用排水路が土水路である 事業により竣工された用排水路が地区内にある 事業により地区全体の用排水路が竣工済みである	5 3 1	5	用排土側溝
	計		13	13	
緊急性	事業未実施の影響				
	応急対策の実施状況	毎年応急対策を実施している 過去3年以内に応急対策を実施したことがある 応急対策を実施したことはない	5 3 0	5	改良区で毎年実施
	受益者の高齢化状況	65歳以上の耕作者が45%以上 65歳以上の耕作者が35%以上45%未満 65歳以上の耕作者が35%未満	5 3 1	5	71%
	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い (事業計画に反映) 関連する他事業との調整が事業期間中に必要 関連する他事業との調整を必要としない	2 1 0	0	-
	計		12	10	
有効性	上位計画への貢献度				
	第2期ふるさと秋田元気創造プラン	プランに関連する事業である プランとは別の個別計画に関連する事業である プラン、個別計画に関連しない事業である	5 3 0	5	
	地域防災計画への位置付け				
	地域排水型暗渠排水	暗渠排水が市町村防災計画へ位置づけ、または協議済みである 暗渠排水を市町村防災計画への位置づけを協議中である 暗渠排水を市町村防災計画へ位置づける予定はない	5 3 0	3	大仙市と協議中
	期待される具体的効果				
	農地集積及び法人の面的集積	法人への面的集積率が70%以上である (且つ農地集積率85%以上) 法人への面的集積率が50%以上70%未満 (且つ農地集積率55%以上) 中心経営体への農地集積率が55%以上である	10 7 3	10	法人 73.2ha 92.5% 中心経営体74.9ha 94.6%
	農業所得	法人の主たる従事者の農業所得が他産業並みの450万円以上 法人の主たる従事者の農業所得が他産業並みの450万円未満	5 0	5	4,649千円
	6次産業化への取組	生産・加工・販売に取り組む 生産するだけでなく、加工または販売、契約栽培に取り組む 生産だけ行う	5 3 0	5	生産・加工・販売
	複合化の取組	新規作物の導入が図られている 新規作物の導入が図られず、現状と変わらない	5 0	5	アスパラ、キャベツ、ほうれん草
	品質や収量の向上	地下かんがいシステム、新技術の両方を導入する 地下かんがいシステムを導入する 地下かんがいシステムを導入しない	5 3 0	5	地下かんがいの導入 ecoライス
計		40	38		
効率性	事業の投資効果				
	費用対効果	B/C = 1.2以上 B/C = 1.0以上~1.2未満	5 3	3	1.14
	事業実施コストの削減				
コスト削減計画	コスト削減計画を策定、事業計画に反映 コスト削減計画を特に検討していない	5 0	5	購入土量の削減	
計		10	8		
熟度	地元の合意形成の状況				
	同意状況	全員の同意が得られている 未同意者が存在するが、事業実施に支障がない 未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	15 10 0	10	同意率99%
	事業推進のための各種協議の進捗状況				
	進捗状況 (水利権、道路協議等)	必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている 協議中であり、合意が得られる見込みである 協議中であり、合意時期が未定である	5 3 1	3	河川予備協議中
	環境と調和への配慮状況				
環境保全への配慮	環境検討委員会を設置、環境保全への取組内容が十分 環境検討委員会を設置、環境保全への配慮を検討中 環境検討委員会が設置されていない	5 3 0	5	環境検討委員会実施済み	
計		25	18		
合計			100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		